

令和6年度 学校評価総括表

奈良育英中学校・高等学校

教育目標		1.人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒を育成 2.自主・自立的な姿勢や態度を研ぎ、高い志を持って個別最適な学びを目指し、全てのことに全力を尽くす生徒を育成 3.文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成 4.ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するとともに、地域と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒を育成 5.英語教育に力を注ぎ、英語検定で合格を勝ち取り、またその結果により、生徒に「自信」を呼び起こす教育を実践						
部	評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	
教務部	教育活動を円滑に遂行するためのシステム作り及び教員間の協力体制の強化	教育課程の検証(継続)	・教育課程の修正や改善についての検証	C	B	今年度より全学年で新学習指導要領のもとでの授業が展開された。なお、一部のコースや科目における教育課程について検討しきれなかった。	教務部だけでなく、管理職も交え、教育課程の構成及び時間数について検証・改善を図る。	
		評価方法の確立	・観点別評価の明確化(システム化)	B		昨年度からの課題であった観点別学習状況評価の基準の修正を行った。また、成績処理システムの共有を行った。観点別学習状況の評価をもとにして指導の改善、生徒の学習状況改善へとつなぐことができた。一方で、教務システムの不都合により処理が滞る時が幾度あった。	観点別学習状況評価の基準について、引き続き検証していく。教務システムについては、検証用アカウントを発行してもらい、円滑に処理が進むように図る。	
		授業改善(探究的な学びの推進)	・主体的・対話的な学びによるコミュニケーション能力の育成	B		教員が県の教育委員会や教科研究会等の主催する研修会に積極的に参加しその内容を教科で共有することができた。	各教員の授業力向上や授業改善に向けて、情報科とも連携しながら校内研修を引き続き推進していく。	
			・ICTを活用することによる効果の検証(学力の定着・向上)			ICTを活用した授業実践の推進のための職員研修を行った。(スクールタクト)	学力の定着・向上の確認については、授業評価アンケート等で引き続き検証する予定である。	
生徒指導部	生徒が学校を愛することができ、他者からも愛される学校を実現する生徒指導体制の構築	生徒が安全で安心な学校生活を送ることができる環境作り	・いじめの防止と発覚時の適切かつ迅速な対応	B	C	担任や学年を中心に日々の生徒の様子を把握し、いじめ防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、1・2学期にいじめアンケートを実施していじめの実態の把握にも努めた。避難訓練、防災・防犯ホームルーム等を実施して生徒の防災・防犯意識の向上を図り、現在問題となっている間バイトについての注意喚起も行った。清掃活動に真面目に取り組む姿勢が見られる生徒が大半であるが、清掃が徹底できていない場所も見受けられる。また、教室や廊下・通路等にゴミが落ちていることも見受けられ、日常生活において積極的な美化意識が高くはないのが現状である。	担任や学年を中心に組織的にいじめ防止・早期発見・早期対応に努め、いじめアンケートを実施して生徒の現状の把握に努める。自然災害時に命を守る行動がとれる生徒を育てることを目標に避難訓練、防災ホームルーム等を計画・実施する。間バイト・スマートフォンの危険性(撮影罪・SNSのトラブル)等犯罪につながる行為への注意喚起に努める。ホームルームを中心に身の回りの整理整頓に努め、日常の教室やトイレの使用の仕方や清掃等のマナーや環境美化を意識する指導を行って学校全体の美化意識の向上を目指す。	
			・防災・防犯・交通安全等の「命の教育」の充実			学期に遅刻を5回以上する生徒が多く、予鈴が鳴ってから教室に駆け込む姿も大変多く見られ、授業においても予鈴で着席できておらず、全体的に基本的な生活習慣が身についているとはいえない。また、携帯電話の違反や登下校時の苦情も多く、モラル・規範意識は高くないのが現状である。	学校全体の規律や時間に対する意識改革を進めるとともに、担任や学年を中心に校則の遵守・マナーやモラルの養成、遅刻や予鈴での着席等の日々の指導に努め、基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を目指す。	
			・校内美化の意識の向上と通常清掃の徹底			スカート丈について基準を明確化したが、教員全員が同じ基準で指導ができていることが課題である。全体には職員朝礼、個別には担当者による打ち合わせを通して、できるだけ生徒の実情の報告や指導の依頼等を行い、教員間の情報共有と連携の促進に努めた。遅刻指導やアルバイト規定や新入生の制服購入等についての改訂は行うことができたが、まだまだ校則・規定等の検討と改定が必要なものがあるのが現状である。	教員全員が同じ基準で指導ができる現行の校則・規定等の明確化を引き続き実施するとともに、学年主任の協力を得ながら教員全体の指導に対する意識改革を目指していく。今年度同様、迅速かつ適切な情報共有を意識して教員間の連携を高め、的確な指導ができるように努める。優先度の高いものから順に、時代に合った校則・規定等の検討と改定を進めていく。	
		他者から信頼される生徒の育成	・基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を図る指導	C		学期に遅刻を5回以上する生徒が多く、予鈴が鳴ってから教室に駆け込む姿も大変多く見られ、授業においても予鈴で着席できておらず、全体的に基本的な生活習慣が身についているとはいえない。また、携帯電話の違反や登下校時の苦情も多く、モラル・規範意識は高くないのが現状である。	学校全体の規律や時間に対する意識改革を進めるとともに、担任や学年を中心に校則の遵守・マナーやモラルの養成、遅刻や予鈴での着席等の日々の指導に努め、基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を目指す。	
			・他人の気持ちを思いやり、隣人と助け合う心の養成			学期に遅刻を5回以上する生徒が多く、予鈴が鳴ってから教室に駆け込む姿も大変多く見られ、授業においても予鈴で着席できておらず、全体的に基本的な生活習慣が身についているとはいえない。また、携帯電話の違反や登下校時の苦情も多く、モラル・規範意識は高くないのが現状である。	学校全体の規律や時間に対する意識改革を進めるとともに、担任や学年を中心に校則の遵守・マナーやモラルの養成、遅刻や予鈴での着席等の日々の指導に努め、基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を目指す。	
		不公平感を生まない生徒指導	・教員全員が同じ基準で指導ができる現行の校則・規定等の明確化	C		学期に遅刻を5回以上する生徒が多く、予鈴が鳴ってから教室に駆け込む姿も大変多く見られ、授業においても予鈴で着席できておらず、全体的に基本的な生活習慣が身についているとはいえない。また、携帯電話の違反や登下校時の苦情も多く、モラル・規範意識は高くないのが現状である。	学校全体の規律や時間に対する意識改革を進めるとともに、担任や学年を中心に校則の遵守・マナーやモラルの養成、遅刻や予鈴での着席等の日々の指導に努め、基本的な生活習慣の確立とモラル・規範意識の向上を目指す。	
・教員間の情報共有と連携	・時代に合った校則・規定等の検討と改定	・時代に合った校則・規定等の検討と改定	・時代に合った校則・規定等の検討と改定					
進路指導部	生徒の"希望する"進路の実現にむけた、確かな進路指導体制の確立	生徒の"希望する"進路の実現にむけた、学校・保護者・生徒一体となる指導	・新課程入試の情報、分析、迅速な共有	B	B	【高】については「SDGs大学ゼミ」を年2回実施し、講義の内容や大学説明など生徒及び大学関係者からの反応も良かった。また、【中】【高】ともに、進路ガイダンスや体験会など滞りなく実施することができた。生徒がどのような目的をもち、進学先を選ぶ際のミスマッチを少なく、また自身の目的を明確にしながら進路選択をすることができた。	大学入試のみならず、様々な情報を"知る"機会を多く作っていく。生徒が実際に"見て"、"感じる"ことによる意識向上、そのためには何が必要なのか(学力・目的意識)を進路指導部として、発信していく。	
			・模擬試験の分析、授業内容や朝学習等の精査			生徒に対しては、ホームルームや朝の会、オンラインを利用した進路ガイダンスを実施できた一方、保護者がガイダンスについては、なかなか実施することができなかった。	特に保護者に対しての情報発信の方法の強化、また全国入試情報の取得、発信の強化。	
			・連携大学との行事や各体験行事における学びたい学問の幅の拡充			また、各学年への進路情報(入試情報やオープンスクールや、各大学の情報、イベントの周知など)はクラスルームを活用できた。今後は、入試情報などさらに詳しい情報を円滑(リアルタイム)に発信していく体制づくりをしていきたい。		
		広報(情報発信)の充実	・保護者進路ガイダンス(対面やオンライン)を通しての本校進路方針や本校および全国における入試動向の分析、共有	B		各コース長を中心とした、コースの特徴に応じた行事の策定や指導体制の確立は今年度でできなかった。	各コース主任との連携を強化し、コースとしての特徴をより明確にしていく。	
			・生徒への迅速な情報提供および各種説明会の充実			・式典や刊行物は、丁寧な計画策定、実施ができた。	・式典については、生徒数の増加に伴い、進行の方法や校外施設の借用など、様々な形を検討していく。	
		・端末を活用した情報の取得	・各コースとの連携、行事の策定	C		・交流事業について、夏期語学研修を企画し、豪カーメルカレッジ校との交流を実施できた。 ・文化行事は中学と高2、高3は劇団四季、高1は歌舞伎と充実した活動が実施できた。	・交流事業の再考 ・文化行事の時期と内容の検討 ・文化行事は中高一貫としたプログラムを検討していく。	
教育推進部	「命の教育」と「愛校心教育」を意識した計画や運営	保健安全の強化	・保健指導の充実、保健室との連携、情報共有	B	B	・生徒主体の体育行事が実施できた。 ・熱中症対策の講演会を実施し、危機管理の意識の向上を図ることができた。	・体育行事については、生徒数の増加に伴い、進行の方法など、様々な形を検討していく。 ・命の教育を意識した講演会等を実施し、危機管理の意識をさらに高める取り組みを検討していく。	
			・安心安全の体育行事の企画・運営			・式典や刊行物は、丁寧な計画策定、実施ができた。	・式典については、生徒数の増加に伴い、進行の方法や校外施設の借用など、様々な形を検討していく。	
			・生徒の自主的な部活動指導			・交流事業について、夏期語学研修を企画し、豪カーメルカレッジ校との交流を実施できた。 ・文化行事は中学と高2、高3は劇団四季、高1は歌舞伎と充実した活動が実施できた。	・交流事業の再考 ・文化行事の時期と内容の検討 ・文化行事は中高一貫としたプログラムを検討していく。	
		式典・刊行物等の強化	・充実した式典の企画・運営	A		・式典や刊行物は、丁寧な計画策定、実施ができた。	・式典については、生徒数の増加に伴い、進行の方法や校外施設の借用など、様々な形を検討していく。	
・刊行物作成における校正方法の充実	・交流事業について、夏期語学研修を企画し、豪カーメルカレッジ校との交流を実施できた。 ・文化行事は中学と高2、高3は劇団四季、高1は歌舞伎と充実した活動が実施できた。		・交流事業の再考 ・文化行事の時期と内容の検討 ・文化行事は中高一貫としたプログラムを検討していく。					
入試広報部	奈良育英ブランドイメージの向上と安定した入学生の確保	奈良育英ブランドイメージの向上	・国際交流事業の精査と検討	B		B	・入試説明会や個別相談会等では、概ね本校の特徴を発信することができた。	・説明会等で発信する内容を精査し、より充実した広報活動を実施する。
			・本校関係者(特に在校生とその保護者)の満足度向上				・《保護者アンケートによれば》改善すべき点はあるものの、概ね満足度は高かった。	
			・各種入試広報行事の充実				・高等学校学校説明会をはじめ、入試広報行事の拡充を図ることができた。	
		定員充足	・(高校入試)各コースにおける定員の充足	B			・高校全体としては定員充足できたが、国際理解Gコースについては定員を充足できない見込みである。	特に、国際理解Gコースについて、受験生及びその保護者のニーズを分析し、改めて情報を発信する。
			・(中学入試)定員充足				・イベント参加者数は昨年並みであったが、結果的に定員充足できなかった。	受験生及びその保護者のニーズを分析し、改めて情報を発信する。
		広報活動の促進	・非対面広報活動の充実	B			・ホームページやチラシ・刊行物は例年同様のクオリティで発信することができた。	受験生及びその保護者のニーズを分析し、より分かりやすく説得力のある広報媒体作成を目指す。
・生徒主体で学校の魅力を発信できる体制作りの推進	・オープンスクールにおける学校説明では、発信者の考えと受験生・保護者のニーズに一部齟齬が見られた。		次年度はポスターを作成し、広報活動を強化する。					

学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である